

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200172		
法人名	アコオビジネスコンサルティング株式会社		
事業所名	グループホーム アコオ憩いの家倉敷三田 (Aユニット)		
所在地	岡山県倉敷市三田124-1		
自己評価作成日	平成24年10月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200172-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成25年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした田園風景が広がり、季節を感じる事ができる立地条件に加え、京都をイメージした庭園にある、延命地蔵には毎日のようにお参りする入居者の姿があり、癒しの空間となっております。毎朝行われる朝礼では、オ・ア・シ・ス運動を行い、職員の礼儀、接遇面の向上に力を入れています。また、申し送りや報告では、入居者の体調の変化や問題を申し送るだけでなく、良かった点や気づきなども報告するようにしており、トレーニングとして週一回の気づき会議も継続しています。「その人らしく生きる、共に生活する」をモットーに入居者の自立心を大切に、得意な炊事・洗濯などしていただいたり、協力して生活できるようにしています。決められたイベントだけでなく、その日その日を大切にしたいという思いから、外食や喫茶や買い物と希望に応じて行ったり、昨年一泊旅行(全員参加)を実現し、今年も秋に計画しています。また今年利用者の「したい」を実現する自立支援活動で長年営業されてた喫茶店を週一回3時間で再開しています。家族会は年4回実施。地域コミュニティーの一環でAEDを設置しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

笑いが多く、職員間のチームワークや風通しの良さを感じる、和やかで楽しい事業所である。安全安心な介護を実践し、利用者の些細な変化や行動に目を配り、連絡、相談を密に行っている。「気づきノート」は細かく記入され、また頻繁に会議やミーティングが開かれている。代表者や管理者が職員との懇親会を時々開いて、気軽に話ができるようにし、職場環境の改善につなげている。職員同士でも互いに注意し合っ、ケアを向上させている。昨年は協力医が同行して、一泊旅行を実現させた。最近では、畑を作って利用者等と共に栽培を始めた。また、利用者がかつて経営していた喫茶店を再開するなど、思いや意向をいかに実現するかという点に腐心している。医療機関が事業所を信頼して利用者を紹介してくれることもある。看取り体制が整備されていると同時に、利用者が亡くなった際は必ず全職員が葬儀に参列し、最後まで利用者にも家族にも心をかけたケアが実施されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員の目につく場所へ掲示し、理念の共有と意識向上に努めている。 特に明るい職場作り・環境作りを日々心掛け実践している。	明るい挨拶、楽しい職場、安全安心な介護という理念を、職員間で話し合い、その意義を深く、細かく追求してケアや意識の向上を図っている。朝の朝礼は本社に赴き、理念を集約した形である「本気、元気、根気」を意識づけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	会社及び代表者がこの地域に地盤があり、地域活動やお祭りなど積極的に参加している。施設行事に地域住民を招いたり、子供神輿は事業所内披露が順路になっているなど交流を深めている。	事業所開設以来、地元との関係は着実に強まっている。元町内会会長が運営推進会議に参加し、町内会長からはAEDの相談を受けた。また、近隣のボランティアが頻繁に来訪したり、利用者と一緒に開いた喫茶店に地域住民を招待したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事へ地域の方やボランティアの方に参加してもらい、認知症に対する理解を深め協力してもらえるように努めている。また、無料通話にて介護なんでも相談窓口を設け、地域の方々から相談を受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域の町内会長、民生委員、ボランティア、利用者の家族、市職員・議員、地域包括支援センター、愛育委員、他事業所の職員の方々に参加いただき、現況報告・意見や情報交換の発言内容を全て記録して今後のサービス向上に努めている。	介護への意識の高い参加者が増え、活発に意見交換されるようになった。他事業所の施設長の参加で新しい情報を得たり、会議を通して様々なことを再認識し、日頃のサービスの見直しや向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	どんな小さな疑問でも連絡・相談を行い、疑問を即座に解決するようにしている。また運営推進会議を通して日常の報告やアドバイスを受けている。	介護報酬等に関する疑問点や理解しづらい点は、市へ積極的に問い合わせ、納得のいくまで話し合い、その後を報告して信頼関係を築いている。運営推進会議には、市と地域包括支援センターの職員が共に参加し、協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」に関する委員会・勉強会を毎月ユニット会議で開催して発表している。 玄関の施錠については週1回開錠している。また他の施錠箇所についても減らし、身体拘束ゼロ運動を心掛けている。	職員は利用者の傍らで話を聞いたり、やりたいことを見守ることで、身体拘束をしない環境を作っている。管理者だけでなく、職員同士でも注意し合う。玄関は週1回の開錠に留まっているが、今後は開ける時間を徐々に増やしていく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待」に関する委員会・勉強会を毎月ユニット会議で開催して発表している。 外部の研修にも参加している。		

グループホーム アコオ憩いの家倉敷三田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当法人の成年後見制度に関する専門家により必要に応じて勉強会などを行い、知識の習得や活用できるよう心掛けている。 現在支援中の利用者がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、必要に応じて利用者の自宅に訪問し理解・納得してもらっている。新たに加わったものはその都度文章にし理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の理解を得て家族会を発足させた。開催日も家族に合わせ決定し定期的に会合を開き、意見交換を行っている。また、参加人数を増やすためイベントとコラボを計画したり、要望受付箱を設置し、要望受付簿を大いに活用している。	職員の入れ替わりが多く、不安に感じたという家族の声を受け、現在ではユニット間での職員異動も極力抑え、利用者を担当する職員の固定化に努めている。また、職員の名前が分からないという意見には、新入職員がどの家族にも自己紹介と挨拶をし、名前を覚えてもらえるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の事業所担当者会議・ユニット会議・気付き会議・企画担当者会議や日頃の会話から情報を共有し、代表者や管理者と一緒に考え反映させている。	様々な会議が月1回以上開かれ、理念実現のためのルールや介護方法、職場での問題解決等、職員から出た意見を多岐に渡って反映している。代表者や管理者は職員の本音を知りたいとの強い思いから、日頃から積極的に話し合いの場を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はコミュニケーションを取るため、食事会やバーベキュー大会を行い、明るい職場を作る環境を提供してくれ、職員もその意味を理解しチームワーク良く、目標に向かって努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に認知症介護のスペシャリストを養成するための研修に参加させている。事業所ではチームを編成しテーマを考年2回「グッとジョブ」研究発表会をしている。資格取得にも全面的バックアップを行っており、認知症ケア専門士2名在籍で殆どの職員はここで実践し、教育を受け資格取得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各協会の研修会へ積極的に参加している。 同業者との連絡や相談など交流を図れるよう努力し、施設見学も受け入れている。特に若い世代の交流会を予定している。		

グループホーム アコオ憩いの家倉敷三田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には病院や家庭に何度も訪問し、お話や顔なじみになるようにしている。利用が決定すればカンファレンスを行い、本人や家族の希望に沿ったサービスを提供するよう努めている。また、担当者を選び、より細やかなサービスを行えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることに耳を傾け相談にのっている。家族会を設け、家族同士のコミュニケーションもとり、お互いに悩みを話し合い少しでも家族の不安を解消できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて本人や家族と何度かお話しする機会を設け、事業所でのサービス利用が適切であるかどうか、事業所内で十分協議し当デイサービス利用や他のサービスも視野に入れて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護という視点ではなく援助するを心掛けている。一緒に買い物に行ったり炊事を行うことでコミュニケーションを取っている。また、人生の先輩として特に社員教育のやり方など一緒に考えてもらっている。尊敬や敬意の念を忘れない関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日頃の生活状況やホットニュースなどはすぐに家族へお知らせしている。また毎月一回家族へ担当職員や時には利用者本人が手紙を書き送っている。あくまでも当事業所は家族と利用者本人との橋渡しの援助を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	慣れ親しんだ家財道具を部屋に設置するなど生活環境を変えないように配慮している。また、馴染みの場所に同行し、馴染みの方との交流が途切れないよう支援している。	友人に頼まれたクリスマスケーキを作って持っていき、喫茶店を再開する、馴染みの場に度々同行する等、利用者の生活歴を軸にした支援に努めている。遠方の家族が数日事業所に宿泊したこともある。また毎月、利用者や担当職員が家族に宛てた手紙を出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良しの利用者同士と一緒に外出し、喫茶店や買い物へ行ったりしている。また、利用者のテーブルの配置などを考え、孤立しないように心掛けている。		

グループホーム アコオ憩いの家倉敷三田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院など退居された方のお見舞いに行ったり、家族との連絡を定期的にとるなど必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、利用者の個々の特性にあわせて、食べ物や入浴、外出、日中の過ごし方など利用者の希望に沿った生活をしてもらうよう努めている。	「気づきノート」や気づき会議を通して、利用者の思いや希望を把握して職員全員で共有している。そして、喫茶店を営んでいた人には日数限定で職員と共に店を開ける、本好きの人と書店に行く、友人に預けた犬を定期的に連れて来てもらう等、思いの実現につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にあらゆる情報を、利用者の取り巻くすべての人から聞き、職員全員が把握できるように、細目にカンファレンス等開催して徹底するように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態を把握して、残存能力を最大限活かせるよう支援している。特に精神的な心の動きには十分注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成にあたっては、利用者本人や家族の思い、介護スタッフ、看護師や医療関係者など多職種からモニタリングした内容を総合的に盛り込み、利用者が自分らしい生活を送れるよう話し合う場を設け、プランに反映させている。プランは3ヶ月に1回見直しを行い、緊急を要する場合は、その都度見直しを行っている。	介護計画は3ヶ月に1度見直し、利用者や家族の意向が計画に反映されるよう、日頃から情報を収集している。しかし、利用者ごとに異なる介護計画を、すべての職員が周知するには至っていない。	日々のケアの中で介護計画がより反映され、また、次回計画立案時の根拠となるよう、計画を意識した個別記録の工夫を期待したい。合わせて記録の付け方の標準化にも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルには朝・日中・夜間の時間帯に分けて記録している。職員の気づきや利用者の状態変化について気づき会議を実施。ユニットで日誌付けを実施し、職員間の確実な申し送りに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の利用者に適応し、喫茶店のマスターをしていた方には週一回以前営業していた喫茶店をオープンしてコーヒーやカレーを作り顔なじみの方々に提供している。給食を作っていた方は調理を手伝ってもらい、手先の器用な方には紙を折って器を作ってもらったりと他の施設に無い程の柔軟な個別対応を行っている。		

グループホーム アコオ憩いの家倉敷三田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々に合わせた能力を十分発揮するため、買い物、散歩、ドライブ、地域活動に積極的に参加できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合的な分野から本人に合った適切な医療を受けられるようにかかりつけ医を確保している。提携医が定期的に往診をしている。個人のかかりつけ医への家族同行受診に重きを置かず、毎日の介護につなげるために職員が同行している。	協力医が利用者の一泊旅行に同行する等、親密な信頼関係が築けている。利用者に向けた医療が受けられるよう、職員が受診に付き添うことが多く、状況報告書を持参したり、薬の効果を尋ねたりしている。事業所には看護師が2名在籍し、医師とのやりとりが的確にできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2人体制で支援する一方、看護師と介護職員で勉強会を行い、水分補給のこと、感染症のことなど、正確な知識と対応ができ共有できる体制になっている。看護師と介護職員が議論することで抜群のチームワークとなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院医師と施設看護師が常に連絡を取り合い、介護職員にもわかりやすく報告・連絡を行っている。提携医が協力的で小さな疑問でも迅速に対応してくれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状が重度化する前から利用者や家族の意向を理解し、利用者が最も自分らしく生涯を満して終末を過ごせるように環境を整えることはもちろん、花が好きな方は花見、歌が好きな方にはアコーディオンで歌ってもらい、本の好きな方には図書館で本を借りたりして満足してもらっている。チームケアに取り組み24時間対応の医師との連携によりこれまで数回の看取りを経験している。	24時間対応の医師との連携もあり、本人や家族の意向に合わせた終末期ケアの体制が整っている。看取りにあたっては、管理者を中心に綿密な打ち合わせをし、経過を看護師が管理している。また看取り後の会議では、全職員が思いを吐き出し、次の終末期ケアへとつなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の状態観察や異変の早期発見は全職員ができています。バイタル・サーチュレーションの測定ができるよう指導している。また緊急時対応については、AED設置やマニュアルを整備し周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー・非常階段・消火器を設置している。年2回昼・夜間を想定した避難・消火訓練を防火管理者と市消防職員指導の下行っている。家族・地域の参加も呼び掛けている。	人の命が何よりも大切との思いから、骨折を覚悟した避難方法等の実践的な災害対策に取り組んでいる。大雨で周囲が冠水し、車が出入りできなくなったのを契機に、地域の協力を得る方法を検討している。消火器の位置や本数、緊急通報装置の操作方法は、全職員の熟知には至っていない。	消火器の本数や位置、通報装置の操作方法を、全職員が把握するよう期待したい。また、家具の転倒防止や備蓄食料の準備、地域との防災に関する関係強化の実現も期待したい。

グループホーム アコオ憩いの家倉敷三田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人權の尊重を肝に命じ、利用者がトイレの失敗をしても自分で始末出来る場合は、陰で見守り、援助が必要と判断した場合は、偶然を装って援助を行い、決して出過ぎること無く対応し、利用者との良い関係を保っている。	利用者が事業所を自分の家と思えるよう、信頼関係を築く中で、より親しみやすい言葉かけや対応を心がけている。利用者が触れてほしくない話題やトイレ誘導などに対しては、「気づきノート」等を活用して職員全員で共有し、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の目線やスピードに合わせるのではなく傾聴し、本人の思いを聞き出す努力をしながら、常に自己決定しやすい言葉かけをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分らしい生活ができる様、ケーキが食べたいと言えば喫茶店に行ってケーキを食べたり、甘いコーヒーが飲みたいと言えば有名コーヒー店に出かけたり、麺の好きな方はうどん屋へと、随時希望に沿って出かけ大変喜んでもらっている。入院しても早く施設へ帰りたと言われ職員一同うれしく思っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容による散髪・毛染めなど行っている。また、職員と一緒に買い物へ出かけ、利用者が希望する服や化粧品などを購入し、おしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れ、一緒に味見をしている。和風の方、洋風の方に合った食事を提供し、洋風の方にはフォークとナイフを準備する事もあります。また、食べたい物を聞いたり、お寿司の出前やカレーの日を設けるなど様々な工夫をしている。	利用者と共に職員もテーブルを囲み、談笑しながら同じ食事をとっている。下膳などを利用者が進んで手伝っていた。利用者と一緒に買い出しに行ったり、各人の好みに合うように味付けをする等、おいしく楽しく食べてもらえるよう、配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量と水分量は表で管理し、水分が摂りにくい方には少量を何回か分けて提供し、嗜好に合わせて豆乳やミルクやOS-1など個別対応している。また、一週間の献立を作成し、利用者に分かるようその日の献立をリビングのボードに書いている。ミキサー食の彩や高カロリー食など状態に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝前に介助が必要な方は職員が介助し、自分で出来る方は本人が口腔ケアをして職員は見守りチェックをしている。特に入れ歯は就寝前ケースに入れ消毒している。誤嚥性肺炎の第一の予防として正しい口腔ケアに努めている。提携歯科の協力で技術を学び、すぐ往診してもらえる体制になっている。		

グループホーム アコオ憩いの家倉敷三田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員側の都合ではなく、個々の排泄リズムに沿った支援をするため、排泄チェック表での管理をしている。おしめの使用は極力避け自力での排泄を促しながら、便意・尿意のコントロールが出来るよう自立に向けた支援を行っている。	自尊心の維持や経済的負担の軽減から、安易におむつや紙パンツに頼らず、尿意のある利用者にはできるだけ綿パンツを使用し、トイレで排泄できるように取り組んでいる。尿意を感じにくい人はチェックリストを使い、適時声をかけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や果物を食事につけ、水分摂取も大切に、また便秘予防に取り組んでいる。また、体操や散歩など運動を行い、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1階には準天然温泉風呂を整備しており、毎日のように楽しんでもらっている。冬にはゆず湯をしたりして職員も一緒に入ったりしています。屋に入りた方、夕食後のんびり入りた方の特徴を覚え誘導している。最近女性利用者の希望でワンランク上のリンスを購入し好評である。	準天然温泉風呂があり、入浴が楽しみという利用者が多い。夕食後から20時頃まで入浴対応できるよう、この時間帯に職員を2名配置している。利用者どうして入浴順序を調整したり、利用者の希望で職員と一緒に入浴することもよくある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に昼寝したり、本人の意思に応じた支援をしている。睡眠が少ないときには、日中散歩をしたり、明るさや室温を調整し、時には付き添い話をするなど安眠対策をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬には看護師、介護職員とも万全の注意を払っている。一週間の朝昼夜、眠前の薬を専用の薬箱にセットして、必ず二人でダブルチェックを行っている。使用方法についても24時間体制で看護師に相談できる体制である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸が好きな方はアサガオやハーブを栽培して楽しんでいます。施設内の畑でイモ掘りを楽しむ姿も珍しくありません。ドライブに出かけ景色を見ながらランチを食べに行くのも人気があるコースの一つです。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を家族へ伝え、家族との外出をお願いしている。事業所全体やユニット単位で買い物や外食(モーニング・ランチ・ディナー)・散歩・ドライブなどによく出かけている。年1回家族の協力を得て一泊旅行を実施する計画である。	近所のパン屋や田んぼ道への散歩によく出かけ、家族からも外に行く機会が多いと喜ばれている。より外気や自然に触れる機会を増やそうと、最近、近所に畑を作り、利用者と一緒に野菜作りを始めた。昨年は一泊旅行を実現するなど、普段は行けない場所への支援も行われている。	

グループホーム アコオ憩いの家倉敷三田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものがあれば、個人のお小遣いの範囲でいつでも購入出来るよう支援している。喫茶店を週一回開けている利用者は売上金の中から次の仕入れ分を支払ったり、ポットやジャーを購入したりして口座を設け管理している。使用したお金は帳簿管理して本人や家族に解るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ユニットにある携帯を使用し、電話をしたりメールのやり取りしている。また、本人自らは困難な場合も、職員が代筆して手紙を送付し、やり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームにはソファや畳の間があり、自由に過ごせる空間にしている。写真や陶芸作品・事業所新聞も掲示している。ウッドデッキから見渡す和風庭園からは草木の変化から季節感がわかり、和みの時を過ごせるようにしている。	和風庭園があり、周囲は広々と田園が広がっているので、窓から見える風景で季節の移ろいを楽しめる。共用スペースにある掘りごたつやソファに座って、いつでも寛げる。職員が日中に掃除機をかけ、夕食後にモップがけをする他、床清掃は定期的に専門業者に頼んでいる。	換気扇がやや汚れていた。職員の目視だけでは見落としが出るため、チェックリストを作成して、普段の清掃箇所以外にも目を向けられるよう、期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席順や向かい合う位置、テレビ好きな人への席の配置等工夫している。体調や気分の変化により居場所づくりができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て本人が使っていた馴染みのある家具を配置して居心地良くしている。畳の好きな方には和室をベッドが好きな方には洋間を提供しています。また、ベッドを自宅に残してこられた方にはベッドの面会が出来る様にしている。玄関前や庭でエサやり、触れ合う姿は見ていて微笑ましいです。	好きな俳優や風景の写真を飾っていたり、水のせせらぎ音を流したりと、一人ひとりに合わせた工夫がなされている。畳部屋は希望により用意され、こたつを置いたり、布団の出し入れを自分でする人がいる。テレビは多くの部屋にあり、深夜の韓流ドラマを楽しみに見る人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやリビングには字を大きくした張り紙を貼り、毎月リビングに大型カレンダーを職員と利用者として作成している。お風呂はのれんをつけ、居室には表札を掛けわかりやすくするよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200172		
法人名	アコオビジネスコンサルティング株式会社		
事業所名	グループホーム アコオ憩いの家倉敷三田 (Bユニット)		
所在地	岡山県倉敷市三田124-1		
自己評価作成日	平成24年10月22日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajirokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200172-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成25年1月12日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が目につく場所へ掲示し、理念を常に念頭に置き、意識向上に努めている。 特に職場作り・環境作りを日々心掛け実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	会社及び代表者がこの地域に地盤があり、清掃活動やお祭りなど積極的に参加している。施設行事に地域住民を招いたり、子供神輿は事業所内披露が順路になっているなど交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事へ地域の方やボランティアの方に参加いただき、認知症に対する理解を深め協力していただけるように努めている。また、無料通話も設置した地域の相談窓口を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域の町内会長、民生委員、ボランティア、利用者の家族、市職員・議員、地域包括センター、愛育委員、他事業所の職員の方々に参加いただき、現況報告・意見や情報交換の発言内容を全て記録して今後のサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	どんな小さな疑問でも連絡・相談を行い、疑問を即座に解決するようにしている。また運営推進会議を通して日常の報告やアドバイスを受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」に関する委員会・勉強会を毎月ユニット会議で開催して発表している。 玄関の施錠については週1回開錠している。また他の施錠箇所についても減らしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待」に関する委員会・勉強会を毎月ユニット会議で開催して発表している。 外部の研修にも参加している。		

グループホーム アコオ憩いの家倉敷三田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当法人の成年後見制度に関する専門家により必要に応じて勉強会などを行い、知識の習得や活用できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、必要に応じて利用者の自宅に訪問し理解・納得してもらっている。新たに加わったものはその都度文章にし理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の理解を得て家族会を発足させた。開催日も家族に合わせ決定し定期的に会合を開き、意見交換を行っている。また要望受付箱を設置し、要望受付簿を大いに活用している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の事業所担当者会議・ユニット会議・気付き会議・企画担当者会議や日頃の会話から情報を共有し、代表者や管理者と一緒に考え反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者や職員からの話を聞き、改善に努めている。 キャリアパス「将来の道標」を整備し、全職員へ内容の周知徹底を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に認知症介護のスペシャリストを養成するための研修に参加させている。事業所ではチームを編成しテーマを考年2回「グッとジョブ」研究発表会をしている。資格取得にも全面的バックアップを行っており、認知症ケア専門士2名在籍で殆どの職員はここで実践し、教育を受け資格取得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各協会の研修会へ積極的に参加している。 同業者との連絡や相談など交流を図れるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前には、利用者本人と面会する機会を持ち、その情報をカンファレンスを行い、事業所全体で共有している。また担当者は利用者一人に必ず一人決め、より細やかな配慮を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の生活歴や全体像を家族から聞き把握している。また環境や状態の変化があれば即座に対応し家族への連絡も行っている。どんな悩みや要望にも密に対応し、家族とのコミュニケーションを日頃から大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて本人や家族と何度かお話しする機会を設け、事業所でのサービス利用が適切であるかどうか、事業所内で十分協議し当デイサービス利用や他のサービスも視野に入れて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生活する」といった視点で生活してもらるようにしている。一緒に家事を行ったり、食事をすることで、コミュニケーションを図り、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日頃の生活状況やホットニュースなどはすぐに家族へお知らせしている。また毎月一回家族へ担当職員や時には利用者本人が手紙を書き送っている。あくまでも当事業所は家族と利用者本人との橋渡しの援助を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	慣れ親しんだ家財道具を部屋に設置するなど生活環境を変えないように配慮している。友達に電話をしたり、友達の来訪にも対応している。また馴染みの場所に同行しつながりが途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良しの利用者同士と一緒に入浴したり、利用者のテーブルの配置などを考え、孤立しないように心掛けている。		

グループホーム アコオ憩いの家倉敷三田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会があればゆっくり話をしたり、一緒に娯楽を楽しんだりしている。また入院などにより退居になった場合、お見舞いに行ったり、ご家族へ定期的に訪問するなど関係の継続を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々共に過ごす中で、本人の意思を尊重し、思いをしっかりとみ取り、食べ物や入浴、外出、日中の過ごし方など利用者の希望に合わせて生活してもらうよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にあらゆる情報を、利用者の取り巻くすべての人から聞き、職員全員が把握できるように、細目にカンファレンス等開催して徹底するように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づき会議を毎週行うことで、利用者の日々の変化など気づくトレーニングや現状把握と情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人や家族よりモニタリングした内容を盛り込みケアプランに反映させている。ケアプランを基本3ヶ月に1回、その他状況によりその都度見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルには朝・日中・夜間の時間帯に分けて記録している。職員の気づきや利用者の状態変化について気づき会議を実施。ユニットで日誌付けを実施し、職員間の確実な申し送りに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの特性を活かして一人一人の意見をしっかりと聞き、柔軟な対応をしている。食事、入浴、睡眠、通院援助など利用者のニーズに対応している。また家族の方への食事提供なども声掛けしている。		

グループホーム アコオ憩いの家倉敷三田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々に合わせた能力を十分発揮するため、買い物、散歩、ドライブ、地域活動に積極的に参加できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人に合った医療が受けられるよう馴染みのかかりつけ医を確保している。提携医へは往診時やその都度状態報告をしている。ご家族が受診の付添をされる場合は状況報告書を渡してもらい、施設での様子を伝えるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや観察を行い変化や気づきがあれば、看護師へ報告している。介護職員の中にも看護師を配置し、24時間対応で異常時の早期対応ができています。又、共に業務にあたることで、相談、助言が受けやすい環境が整っている。看護師二人体制で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院医師と施設看護師が常に連絡を取り合い、状態を把握し介護職員にも解りやすく伝達している。又、職員もお見舞いに行き状態把握に努めている。提携医が協力的で小さな疑問にも答えてくれており、退院時カンファレンスにて全職員周知徹底している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時はもちろん重度化した場合に重度化や終末期の事業所の方針など利用者にとって一番良い迎え方ができるよう話し合っている。チームケアに取組み経過観察記録を用いて状態把握を行い、24時間対応してくれる医師との連携によりこれまでに看取りを経験している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の状態観察や異変の早期発見は全職員ができています。バイタル・サーチュレーションの測定ができるよう指導している。 また緊急時対応については、AED設置やマニュアルを整備し周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー・非常階段・消火器を設置している。年2回昼・夜間を想定した避難・消火訓練を防火管理者と市消防職員指導の下行っている。家族・地域の参加も呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の念を忘れず、利用者の目線にあった対応をしている。利用者の生活歴を把握し関りのヒントとすることで個々の誇りを大切に対応出来ている。利用者にとって知られたくない事や見られたくない事には充分配慮し、プライバシーの確保に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々利用者に関わる中で思いや希望を読み取るために気づきノートを作り本人のちょっとした言葉や態度などをメモするようにして把握に努めている。今日着たい服や飲み物を選んでもらったり、行きたい場所や食べたい物を聞いて出かけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールは決めておらず、いつでも利用者のペースで過ごせるようにしている。提案して本人に自己決定してもらう事もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品を一緒に買いに行ったり、外出時の服装を一緒に考えて決めたりしている。また、利用者に合わせて美容院への付添を行ったり、訪問理美容も利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの献立を取り入れ、その日に食べたい物にも応じている。調理法を教わったり、味見をしてもらっている。盛り付け・配膳・食器洗いの手伝いもしてもらっている。同じテーブルで会話をしながら楽しい食事ができるように雰囲気作りに努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量や食事量をトータルし、少ない時には好みを聞いたり温度など工夫している。又、一緒に話をしながら飲むことで勧めるようにしている。食べる量が少ない時には外食をしたり本人の食べたい物を食べてもらっている。OS-1は毎日飲んでもらい、栄養補助食品は常備し必要な時に摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前に口腔ケアを行い、マウスウォッシュにてうがいをしている。仕方が解らない時には、うがいの仕方を見せたり一緒にするなど工夫している。出来る方でも見守り、仕上げのチェックを行っている。本人に合った歯ブラシや舌ブラシを使用し、誤嚥性肺炎にならないよう努めている。又、疑問があれば提携歯科に相談している。		

グループホーム アコオ憩いの家倉敷三田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は8割の方が綿パンツ着用し、排泄リズムをつかみトイレ誘導を行っている。尿意があいまいな方でも声掛けを行い誘導している。トイレで排泄があった時は一緒に喜んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の吸い物も含め1日2ℓ摂取を目標にしている。毎食果物をつけたり、夕食後にはオリゴ糖を摂取している。体操や散歩など運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めておらず、ほぼ毎日入ってもらっている。入りたくないと言われた日や希望がある時は1Fの温泉の利用をすすめている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は畳やソファで休憩される方もおられる。夜間寂しくて眠れない方には傍に付き添ったり、温かい飲み物を飲んでリラックスして眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方最初看護師が把握し、介護職員に伝達するようにしている。どの様な薬を吞まれているか理解し、変更があった時もしっかり申し送り、状態変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の望んでいる事をくみ取るようにし、少しでも近づけるように計画している。好きな食べ物や飲み物を一緒に楽しんだり、共に家事をして労をねぎらったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を把握し、家族と外出したり、気の場合方と外出出来るようにしている。買い物や外食・散歩・ドライブ等も日常的によく出かけている。昨年一泊旅行を実現した。今年も2回目を計画している。		

グループホーム アコオ憩いの家倉敷三田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の欲しいものや食べたい物がどれくらいの金額であるか考えたり、支払時お金を一緒に数えて支払をするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしてもらっている。手紙が届いたら返事を書いたり、絵手紙と一緒に書き大事な人に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームにはソファや畳の間があり、自由に過ごせる空間にしている。室温については、外の空気を取り入れたり、「暑い」「寒い」を聞きながら調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳に腰掛けて休んだり、好きな方の隣に座っておしゃべりが出来るようにしている。体調や気分の変化により居場所づくりができるよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や職員も協力して、その人独自の居室を作っている。ベッドや家具・テレビなど昔から本人が使っている家財道具を入れたり、洋服を掛けたり、写真や色紙を飾ったりして個室生活を楽しんでもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやリビングには字を大きくした張り紙を貼り、毎月大型カレンダーに行事など記載し、一緒にみている。洗面所横には化粧水など置いており、自分でつけられるようにしている。居室には表札を掛けわかりやすくするよう工夫している。		